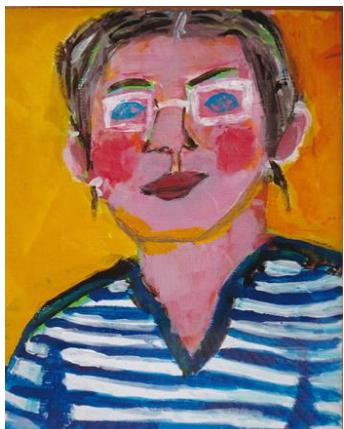




(投稿者)

畠 一雄  
和田孝明・幸子  
永津照見  
堀 良慶  
水口英男  
木村悦雄・正子  
小山美枝  
中柴雅彦  
中村 徹  
福井 豊  
田村和司  
上村真澄  
太田貞雄  
平園賢一  
阿部真也  
小林美希



(順不同・敬称略)

## あーと・わの会（通称「わの会」）

### 臨時放談会

日時 2020年 6月20,21日

インターネット投稿  
参加者（計18名）



## 臨時放談会(順不同)

出品者 畠 一雄さん

作家名	東藝
作品名	「不詳」
材料・技法	水彩
制作年	不明
購入年	1980年



コメント 40年前韓国的世界遺産仏国寺に行き、土産品のようなところで購入。韓国語を教えてくれ、一緒に旅行した友人が譲って欲しいと言ったので、わたしがお金ではなく別の条件を提示して、不調に終わりわたしの手元にあります。

出品者 和田孝明・幸子さん

作家名	横尾忠則
作品名	ピカビアーその愛と誠実 I・II
材料・技法	紙・シルクスクリーン
制作年	1989年・ED150
サイズ	147.0 × 93.5cm

コメント このシリーズは、作者が敬愛するフランシス・ピカビアの作品を下敷きにした、ピカビアに捧げた作品といえる。たとえば II は、擬古典時代の「アダムとイヴ」に抽象の時代における、ピカビア作品「アダムとイヴ」のスタイルを重ねたものである。I・II・IIIがそろうと、大きいだけに見応えのある作品である。



ピカビアーその愛と誠実 I



ピカビアーその愛と誠実 II

作家略歴 横尾忠則 (よこお・ただのり/1936年～)

兵庫県生れ。1952年西脇高校入学、在学中、挿絵の通信教育を受ける。58年日宣美展で奨励賞。62年東京アートディレクターズ・クラブ銀賞。67年ニューヨーク近代美術館にポスター15点買上げ。69年パリ青年ビエンナーレ版画部門グランプリ。72年ニューヨーク近代美術館で個展。81年「画家宣言」。2002年東京都現代美術館で個展。多摩美術大学大学院教授。

## 出品者 永津照見さん



作家名	小出三郎
作品名	「紅衣」
材料・技法	油彩、キャンバス
制作年	1950年 第18回独立展出品作
サイズ	F30 91×72.7cm

コメント モディリアーニ風の大づかみな  
フォルムが印象的な作品です。

明暗の調子の付け方などフォルムのまとめ  
方、しつこく重ねられた絵の具の塗り込み  
には、まだ画風が確立せず悩み格闘する  
画家の姿が見えてきます。

特に晩年の仕事に現れる優美な線も感じら  
れる、伸びやかな良い作品であると思いま  
す。

## 作家略歴 小出三郎（こいで・さぶろう/1908~1967年）

大阪生れ。信濃橋洋画研究所で小出楨重、国枝金三、黒田重太郎に師事。1934年全関西展で  
全関西洋画協会賞。38年全関西洋画協会会員。独立美術協会賞。47年独立美術協会会員。  
汎美術家協会を結成。大阪で没、59歳。

## 出品者 堀 良慶 さん



作家名	司 修
作品名	「男」
材料・技法	パステル・紙
制作年	不詳
サイズ	75.5×56.0cm

コメント 1977年アステカの少女の挿絵を描いて  
いるので司修はメキシコを知っている。帽子はメキシ  
コのソンブレロ、現地人とのメスチーソかも。桜井画廊  
で昨年末の売り立て展でいただいた作品です。『目に  
見えないものをいかに表現するか』とを求め制作して  
いるが私にはそれは判らない。判らなくても優れた作  
家であることは直観で判ります。

## 作家略歴 司 修（つかさ・おさむ/1936年～）前橋市生れ。油彩、石版、エッチング、 挿絵、装丁、絵本の分野でモ活躍。絵本「ちびっこわにのぼうけん」。1976年「金子光晴全集」装丁で講談社出版文化賞。53年画文集「風船乗りの夢」で小学館絵画賞。93年「犬」 で川端康成文学賞。99年法政大学教授。2007年小説「ブロンズの地中海」毎日芸術賞。 24年エッセイ「本の魔法」で大仏次郎賞。版画家、装、絵本、美教

## 出品者 水口英男さん



作家名	山口 源
作品名	不詳
材料・技法	木版画
制作年	1967年
サイズ	40 × 30cm

コメント 源の作品としては異色であまりにも構成的です。画面の上にブルー系の楕円にSのような記号。その下には茶系の丸みのある台形それだけの作品ですが、色と形の絶妙のバランスを感じます。上の楕円が、やや右に置かれているのが真ん中にあるより動的でこのちょっとした不安定が、印象深いものにしているのでは。源の中では、特に気に入っている作品の一つです。

## 作家略歴 山口 源 (やまぐち・げん/1896~1976年)

静岡県生れ。1923年恩地孝四郎に師事。28年日本創作版画協会に初入選。39年一水会創立に参加。41年国展に出品、49年同会会員。57年リュブリアナ国際版画ビエンナーレで優秀賞。58年ルガノ国際版画ビエンナーレでグランプリ。沼津市で没、79歳。

## 出品者 木村悦雄・正子 さん

作家名	更谷富造(漆芸家)
作品名	「雲龍」漆芸による飾り細工
材料・技法	櫛の一木から削り出した箱に、漆塗りにて雲龍の細工を施す。銀の枠を含め、作家一人の手によって全ての細工を完了させることを旨とする。
制作年	2018年
サイズ	18 × 18 × 6cm

コメント せっかくのウェブ放談会、普段の持ちより放談会では紹介の難しい作品を選んでみた。作家の漆芸家・更谷富造氏は26歳で海外に移住後、40年以上にわたって世界の名だたる美術館やコレクターからの信頼を得て、我が国の宝とも言える漆芸品の名品の修復を続けた。70歳を機にウィーンから日本に戻った現在は、後進の指導に当たりながら自らを「今様是真を名乗り」作家活動を続けている。「150年後でも人々の心に感動を与える、価値の落ちない作品づくり」がコンセプト。「雲龍」は作家の最新作。金沢での作家との出会いも含め我々のコレクションの道に新しい思い出として加わった作品である。



## 作家略歴 更谷富造 (さらたに とみぞう/1949~) 京都生まれ

1971 京漆器「象彦」にて蒔絵の仕事に従事1975 - 1981 オーストリアに移住、オーストリア国立応用美術館に勤務1984 ロンドンで個展(以降、国内外で個展、作品展を催す)  
1985 - 1989 イギリスロンドンに移住。修復の仕事に携わる  
1989 - 1992 アメリカイリノイ州シカゴに移住。修復の仕事に携わる  
2009 石川県加賀市に漆工房「KURI」を構える

## 出品者 小山美枝さん



作家名	國田 敦子
作品名	「カサブランカ」
材料・技法	キャンバス・油彩
制作年	不明
サイズ	31 × 40cm

コメント この作品は中柴氏に譲っていただいたものです。この作品が届いたときに、箱から出して、少し部屋から出て戻ってくると、不思議なことにむせかえるようなカサブランカの香りがしました。驚きました。きっと私の脳の中の記憶にあるカサブランカが、この作品に刺激されて香ったのだと思います。今日、実家に行くとカサブランカが満開で香っていました。

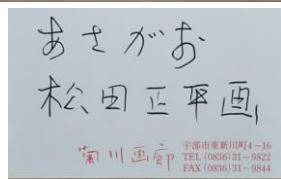
作家略歴 國田敦子（くにた・あつこ/1923~2003年）大阪生れ。1944年女子美術専門学校師範科西洋画部卒。田中一松に師事。45年中学校教師、米軍伊丹基地P xで肖像画制作。58年米軍岩国基地で美術指導。自宅に絵画教室を開講。71、93年銀座・地球堂ギャラリー個展。82年山口県美展佳作賞。90、91年山口県創作文芸県知事賞。2003年没、80歳。08、09年岩国市、周南市で回顧展。

## 出品者 中柴雅彦さん



作家名	松田正平
作品名	「あさがお」
材料・技法	紙・鉛筆・パステル
制作年	2001年

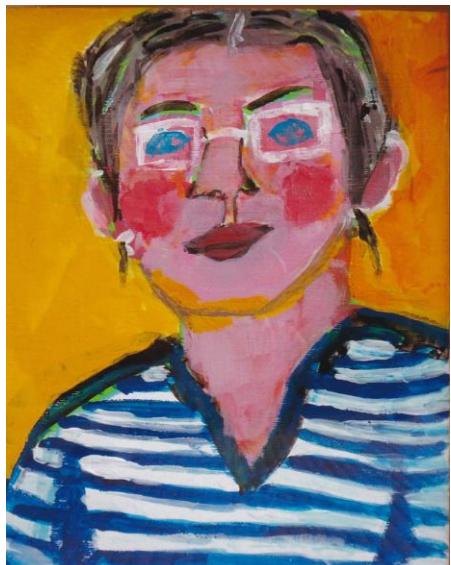
コメント 松田正平は、晩年古里山口県宇部市を終の住処とし、『周防灘』等を描いた。この『朝顔』は、松田の付き人のような存在であった現代画廊の姉妹画廊、菊川画廊主、菊川俊雄氏から求めた。同氏によれば「この作品はよく覚えている。先生(松田)の家の庭先に咲いてたのを描いたものだ！先生は野生の朝顔しか描かない。この作品を観ると当時を思い出す！」と教えてもらった。即興的に写生されたとても瑞々しい印象を受ける作品です。



作家略歴 松田正平（まつだ・しょうへい/1913~2004年）

島根県生れ。1937年東京美術学校西洋画科卒。37~39年渡欧。42年国画奨学賞を受賞。51年国画会会員。フォルム画廊、現代画廊、菊川画廊等で個展を開催。87年山口県立美術館で回顧展。宇部市で没、91歳。

## 出品者 中村徹さん



作家名	若林 夏欧
作品名	「砂絵子 2009」
材料・技法	キャンバスに油彩
制作年	2009年
サイズ	27 × 22cm

コメント 姉若林砂絵子(1972年東京生まれ、1998年多摩美術大学大学院卒業 2000年渡仏 2008年パリで急逝)を描いた作品。2016年ギャラリーTom[若林夏欧展KADODE]展に出品された作品。36歳で亡くなった姉の表情が優しい。若林砂絵子に関する資料としても重要。

砂絵子 2009

作家略歴 **若林夏欧** (わかばやし・かお/1977年～) 東京生まれ 1999年 文化学院文学科卒業 2010年「淀井彩子 若林夏欧 若林奮 若林砂絵子展 本はいのちの水だから---Livres Objets」展 ギャラリーTomに出品。2016年「若林夏欧一わたし自身」かんらん舎 2017年「サンタさん はじめてのしごと」WAKABAYASHI STUDIO発行

## 出品者 福井 豊さん



作家名	山岸主計
作品名	「綱渡り人生・明治百年」
材料・技法	単色墨摺り木版・紙 (自画・自刻・自摺)
制作年	1968(昭和43)年
サイズ	34.5 × 42.5cm(紙寸)

コメント 77歳喜寿となる画家人生を回顧し制作か？地球儀左の五輪はこの年の五輪開催国メキシコの位置。用紙版外左下に山岸主計縦書き名透かし、版外下左にKAZUE YAMAGISHI 横書き名透かし、版内右下に「岸山」と「計主」の朱印。

作家略歴 **山岸主計** (やまぎし・かずえ/1891～1984年) 長野県生れ。15歳(1905年)ころ上京、木版彫刻師武藤秀吉に師事。読売新聞社に勤め、鎌木清方、竹久夢二の挿絵を彫る。黒田清輝率いる葵橋洋画研究所で美術を学ぶ。独立後、30代中盤より歐州取材。版画集「世界百景」その後、「日本百景」を完成。1984年没、92歳。洋画家、版

## 出品者 田村和司さん



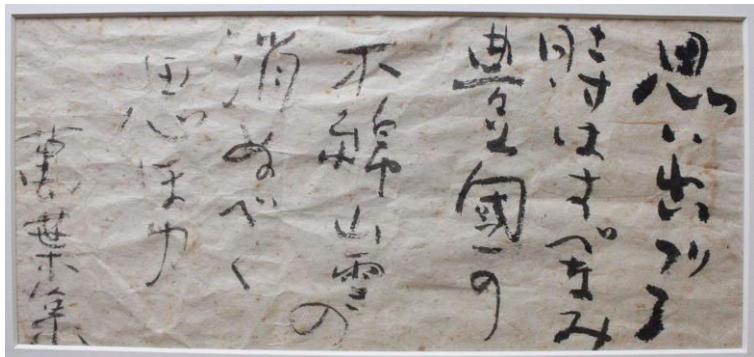
作家名	Hannelone Baron (ハノロール・バロン)
作品名	「無題」
材料・技法	水彩・コラージュ
制作年	不明
サイズ	16.5x38.0cm

コメント ユダヤ人のためナチスの迫害を受け、それが生涯を支配した。生涯、神経衰弱に苦しむ。精神の救済のため作画を行う。

作家略歴 Hannelone Baron(ハノロール・バロン/1926年～1987年)

ドイツ生まれ。ナチスの迫害を受け1938年ニューヨークに移住。1960年頃から水彩、スケッチ、版画を制作。書き溜めた作品が明らかとなり注目される。ニューヨーク近代美術館、サンフランシスコ近代美術館、グッゲンハイム美術館、イスラエル博物館に収蔵

## 出品者 上村真澄さん



作家名	高見乾司
作品名	書 和紙に墨
材料・技法	高見先生が30代の頃
制作年	36x44cm

コメント 2018年、森の空想ミュージアムで長い時間お話を伺った。紅葉の葉陰からきらめく木漏れ日の美しい日だった。わたくし美術館のこと。由布院のこと。現在地の西都市のこと。先生は森と神楽の寄り添い人だった。仮面を見せて頂き、書いてらした書を拝見した。炭の香りが空気を浄化し呼吸すると肺が洗われるようだった。コーヒーと煮豆をご馳走になる。由布院のレジェンドは今までお会いさせて頂いた作家さんの中で最も優しい方だった。今回の作品「思い出づる時はすばなみ豊國の 木綿山雪の消ぬべく思ほゆ」は由布院のことが歌われた万葉集碑です。

作家略歴 高見乾司(たかみ・けんじ/1948～年) 1948年大分県生まれ。1986年、湯布院空想の森美術館を設立・運営し、地域づくりと連携した活動を行なう。2001年に同館を閉館。2007年、宮崎県西都市に九州民俗仮面美術館を開館。九州の民俗仮面と神楽の研究をライワークとし、収集した仮面のうち90点は九州国立博物館に収蔵された。

## 出品者 大田貞雄さん



作家名	葛飾北斎
作品名	「北斎漫画」
材料・技法	画帳(版画か)
制作年	不明
サイズ	B5冊子



コメント 西洋の画家に影響を与えたといわれる北斎漫画であるが、表情や動作が活き活きとして描かれている。これは複製かもしれないが、和綴じのところに「初篇ノxx」と書かれており、初版本の写かも。

作家略歴 葛飾北斎（かつしか・ほくさい/1760～1849年）

江戸生れ。14～15歳で彫版技術を学ぶ。1778年勝川春章の門人、勝川春朗と称し以降、群馬亭、宗理、可侯、辰政、画狂人、戴斗、弔など30を超す号。1807～08年曲亭馬琴「椿説弓張月」86冊挿絵。04～17年「北斎漫画」。23～32年「富嶽三十六景」発表。江戸で没、90歳。

## 出品者 平園賢一さん



作家名	一色邦彦
作品名	「ゆう」
材料・技法	ブロンズ
制作年	1980年
サイズ	高さ62cm(台含む)

コメント 一色の首を代表する作品のひとつとされている。1961年「きつ」1973年に木内克賞を受賞した「こう」、そして1980年現代彫刻センターでの個展出品作「ゆう」である。一目で一色とわかるこの首の強烈な個性は見事であり、佐藤忠良以来の新制作の首狩りの精神がよく見て取れる。

作家略歴 一色邦彦（いっしき・くにひこ/1935年～）東京生れ。1960年東京芸術大学彫刻科卒。60年新制作協会展で新作家賞、会友、、以降同展を主な活動の場とする。新作家賞は62年まで連続受賞し、64年会員。66年高村光太郎賞、73年中原悌二郎賞優秀賞。彫刻家

出品者 阿部真也さん・小林美希さん



作家名	不明
作品名	「ひとやすみ」
材料・技法	キャンバスに油彩
制作年	不詳
サイズ	65.2 × 80.3cm



コメント この作品は10年くらい前のネットオークションでボロボロでしたがおもしろそう、その時のタイトルは青木繁作「ケシケシ山」、まさかでしょが安価落札しました。那須美山旅館の女将が気に入っていて、わの会の井沢尚子さんに修復をお願いし、完了したばかりの作品です。大分お手間がかかった事とありがとうございます。サインも見つかりロシア語なのか、題名は女将と相談の上「ひとやすみ」と付けました。旅館の食堂に飾ってありますので、是非見に来てください！

編集後記:コロナウイルス拡散防止のため4月と7月の2回、放談会の集まりは中止といたしました。今回は皆様に資料を送っていただき、このホームページでの発表です。編集していると、投稿してくださった皆様の声が聞こえてきました。ご覧になられる皆様にもその思いが伝わり、心が和らぐひと時を共に味わっていただけたら幸せです(N)

発行	: あーと・わの会
発行日	: 2020年6月吉日
編集	: 実行委員 あーと・わの会 放談会チーム 写真、編集、デザイン 井澤尚子
連絡先	: 事務局(堀 良慶) 〒277-0871 柏市若柴1-358 TEL 04-7134-8293 ryokeihori@yahoo.co.jp